

科目 「文学国語」シラス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	現代文 A	単位数	3 単位	学年・学科	3 学年全学科
使用教科書	『新編文学国語』（大修館書店）				
副教材等	『国語必携 ライトパーフェクト演習』（尚文出版）、常用漢字ダブルクリア（尚文出版）				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	① 近代以降の様々な文章、特に随筆・小説などを読み、我が国の言語文化に対する理解を深める。 ② 生涯にわたって読書に親しむ態度を育てること、多様な文章や考えに触れることで想像力を働かせ、感動したことを共有する力を育む。 ③ 国語の向上を図る態度や、言語文化の継承と創造の担い手となる資質を涵養する。
学習の到達目標	近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、国語の能力の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
取得可能な資格	特記なし。但し、日本漢字能力検定2級以上取得をした者には増加単位を与える。
授業を受ける心構え	授業には意欲的に取り組み、始業5分前には教科書やノートの準備をし、授業を「聞く」姿勢を整えておく。また、提出物は必ず期限を守って出す。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	・随想「そとみなかみ」 （角田光代） ・小説「ナイン」（井上ひさし）	・随想を読み、筆者の考えに触れることで、発想の面白さに気づく。作品に触れることで、自分自身の生き方を振り返る機会とする。 ・友情をテーマにした小説を読み、人の心のありようを味わう。	・一斉授業(座学) ・言葉でスケッチ ・ライトパーフェクト演習	平常考查 中間考查 学期末考查 提出物
9 10 11 12	・四面楚歌（史記） ・小説「神去なあな日常」 （三浦しをん） ・随想「柿」 （畠中 恵） ・小説「山月記」（中島敦）	・中国の古典に触れ、人の情感の普遍性を味わう。 ・家族をテーマにした小説を読み、愛情の形に触れる。 ・随想を読み、筆者の思いを理解し、自らの生活について考える。 ・山月記を読んで、人間誰もが抱える内面の苦悩に触れ、自身の生き方について考える。	・一斉授業(座学) ・エッセイを書こう ・ライトパーフェクト演習	平常考查 中間考查 学期末考查 提出物
1 2 3	・小説「山月記」（中島敦） ・「方丈記」（鴨長明） ・小説「おぼろ月」（藤沢周平）	・山月記を読んだ感想をまとめ、人生の在り方について考える。 ・鎌倉時代の随想の冒頭をよみ、日本人の感性を知る。 ・時代小説の世界を味わう。	・一斉授業(座学) ・クラスの作品集をまとめよう ・ライトパーフェクト演習	平常考查 学年末考查 提出物

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
表現と理解に役立てるための文法・語句・語彙・漢字などを理解し、基本的な知識を身につけようとしている。 【定期考查・提出物出席状況】	自分の意見をまとめ、質問に即して文章の要旨のまとめ等を通して、適切に読み取ろうとしている。 【定期考查・授業態度】	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとしている。 【提出物・授業態度・発表】

4. 評価の規準(評価の観点については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	比率(%)	その他
定期考查	40	30	30	100	学習到達度の確認
平常考查	40	30	30	100	予習・復習の確認

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
地理歴史	歴史総合	全学科	3	2	新選 歴史総合(東書)	なし

1 科目の目標と評価の観点

目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度	
	近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、理解するとともに諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。		近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題に関して考察したことを効果的に説明したりする力を養う。		近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	
評価の方法・割合等	定期考査 平常考査 課題プリント 等		定期考査 平常考査 課題プリント 等		平常課題 夏課題 授業態度・発表 等	
	4割		3割		3割	

2 学習計画と観点別評価基準 ※履修月は目安

学習内容		月	観点別評価基準等		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1章1節2節	歴史の扉 「歴史と私たち」 「歴史の特質と資料」	4	・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解する。	・近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域および世界の歴史との関連性について考察し、表現する。	・科目全体の学習の見通しを立て、課題を追究しようとしている。
第2章1節2節	近代化と私たち 「近代化への問い」 「結びつく世界と日本の開国」	4 5	・18世紀の東アジア諸国の諸相について、資料から情報を読み取ったり、まとめたりする技能を身に付ける。 ・工業化と世界市場の形成について、概念的に理解している。	・18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などについて考察し、結果を表現している。 ・産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などについて考察し、結果を表現している。	・18世紀のアジア経済と社会について、見通しを持って学習に取り組んだり、自らの学習を調整しようとしている。
第2章3節	国民国家と明治維新	6 7	・列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容について、概念的に理解している。	・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア諸国に与えた影響などに着目して、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などについて考察し、結果を表現している。	・列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容について振り返り、自らの学習を調整しようとしている。
第2章4節	近代化と現代的な諸課題	7	・現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史について理解し、説明している。	・近代化に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、主題について、現代的な諸課題に関連付けて、多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。	・「近代化と私たち」における自身の学習の経緯について、自身の関わりを踏まえて振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

第 3 章 1 節 2 節 3 節 4 節	国際秩序の変化や大衆化と私たち 「国際秩序の変化や大衆化への問い」	9	・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について、諸資料から、情報を適切に読み取ったり、まとめたりしている。	・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。	・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について、学習の見通しを立て、課題を追究しようとしている。
	第一次世界大戦と大衆社会	10			
	経済危機と第二次世界大戦	11	・現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史について理解し、説明している。	・国際秩序の変化や大衆化に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、主題について、現代的な諸課題に関連付けて、多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。	・「国際秩序の変化や大衆化と私たち」における自身の学習の経緯について、自身の関わりを踏まえて振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。
	国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題		・現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史について理解し、説明している。	・国際秩序の変化や大衆化に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、主題について、現代的な諸課題に関連付けて、多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。	・「国際秩序の変化や大衆化と私たち」における自身の学習の経緯について、自身の関わりを踏まえて振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。
第 4 章 1 節 2 節 3 節 4 節	グローバル化と私たち	12	・世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会について、概念的に理解している。	・冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などについて考察し、結果を表現している。	・世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会について振り返り、自らの学習を調整しようとしている。
	グローバル化への問い 冷戦と世界経済	1			
	世界秩序の変容と日本	2	・冷戦終結後の国際政治の変容と課題について、概念的に理解している。	・冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などについて考察し、結果を表現している。	・冷戦終結後の国際政治の変容と課題について振り返り、自らの学習を調整しようとしている。
	現代的な諸課題の形成と展望		・歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題について理解し、説明している。	・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、主題について、現代的な諸課題を展望するなどして、多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。	・「歴史総合」で学んだ全ての内容における自身の学習の経緯について、自身の関わりを踏まえて振り返るとともに、次の学びに向けての課題を見いだそうとしている。

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
数学	数学A	全学科選択	3	2	最新 数学A (数研出版)	パラレルノート数学A (数研出版)

1 科目の目標と評価の観点

目標	図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。					
評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度	
	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
評価の方法・割合等	定期考査 平常考査 課題プリント 等		定期考査 平常考査 課題プリント 等		平常課題 夏冬課題 ポートフォリオ 授業態度・発表 等	
	4割		3割		3割	

2 学習計画と観点別評価基準 ※履修月は目安

学習内容		月	観点別評価基準等		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1章 第1節 場合の数	1. 集合	4	○集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。 ○共通部分、和集合、補集合を求めることができる。	○集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。	○日常語の「かつ」「または」「・・・でない」との関連を認識しようとする。
	2. 集合の要素の個数	5	○要素を書き並べて表して、集合の要素の個数を求めることができる。 ○和集合や補集合の要素の個数の公式を用いることができる。	○ベン図を利用して集合を図示することで、要素の個数を考察することができる。	○集合を考えることで、日常的な事柄などを、集合の要素の個数として数学的に数えようとする。
	3. 樹形図、和の法則、積の法則		○場合の数を、もれなく重複なく数える手段として、樹形図が有用であることを理解している。 ○樹形図や和の法則、積の法則を用いることができる。	○場合の数を数える適切な方針を考察することができる。 ○自然数の正の約数の個数を数える方法を考察することができる。	○1つの原則を決めて、樹形図などを利用して、もれなく重複することなく数えようとする。 ○正の約数の個数を数えることに興味をもつ。
	4. 順列		○順列の用語、記号、公式を理解し、利用できる。 ○具体的な問題を通じて、どのような場合に順列の考え方が適用できるかを見極めることができる。	○積の法則から順列の公式を考察することができる。 ○具体的な問題を通じて順列の考え方が適用できるかを見極めることができる。	
	5. 円順列と重複順列	6	○円順列の用語、公式を理解し、利用できる。 ○重複順列の用語、公式を理解し、利用できる。	○既知の順列や積の法則をもとにして、円順列、重複順列を考察することができる。 ○具体的な問題を通じて、円順列、重複順列の考え方が適用できるかを見極めることができる。	○順列、円順列、重複順列の違いに興味・関心をもつ。
	6. 組合せ		○組合せの用語、記号、公式を理解し、利用できる。 ○組分けの問題を処理できる。 ○同じものを含む順列の総数を求めることができる。	○順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。 ○同じものを含む順列を、組合せで考察することができる。	○組合せの考え方を利用して、図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。
第2節 確率	7. 確率の意味	7	○確率の意味を理解している。		○身近な試行によって起こる事象と関連づけながら、実験などを通じて確率に興味・関心をもつ。
	8. 確率の計算		○事象を集合で表すことができる。 ○試行や事象の定義を理解している。 ○確率の定義に基づき、事象の確率を求めることができる。	○試行の結果を事象としてとらえ、事象を既知の集合と結びつけて考えることができる。	
	9. 確率の基本性質		○積事象、和事象の意味を理解し、具体的な事象に対して、積事象、和事象を集合で表すことができる。		○和事象、積事象、排反、空事象、確率の基本性質を集合と関連づけて考察しようとする。
	10. 和事象の確率		○確率の加法定理を用いて、確率を求めることができる。		○一般の和事象の確率を集合と関連づけて考察しようとする。

	1 1. 余事象の確率	9	○余事象の確率の公式を利用して、確率を求めることができる。	○補集合をもとに、余事象を考察することができる。	
	1 2. 独立な試行の確率		○独立な試行の意味を理解している。 ○独立な試行の確率を、公式を用いて求めることができる。	○2 つの独立な試行を行うとき、その結果として起こる事象の確率について考察することができる。	○独立な試行の確率について、興味をもって調べようとする。
	1 3. 反復試行の確率		○反復試行の確率を、公式を用いて求めることができる。	○反復試行の確率を、具体的な例から直感的に考えることができる。	○具体的事象について、反復試行の確率を、興味をもって調べようとする。
	1 4. 条件付き確率		○条件付き確率の定義、意味を理解している。 ○条件付き確率を、公式を用いて求めることができる。		○くじ引きの確率が、引く順番に関係なく等しくなることに興味をもつ。
	1 5. 期待値		○期待値の定義を理解し、確率の性質などに基づいて期待値を求めることができる。		
三角形の性質	1. 角の二等分線と比		○平行線の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。 ○三角形の内角・外角の二等分線と比の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。	○証明する際に、適当な補助線を引いて考察することができる。	○線分を分ける点や、三角形の角の二等分線と比について調べようとする態度がある。
	2. 三角形の外心、内心、重心		○外心・内心や重心の性質を用いて、具体的な問題を処理できる。	○図形の性質を証明するのに、間接的な証明法である同一法を適用することができる。	○三角形の3 辺の垂直二等分線や3 つの角の二等分線及び3 本の中線が1 点で交わることの証明方法に関心をもつ。
第2 節 円の性質	4. 円周角の定理	11	○円周角の定理を用いて、角の大きさを求めることができる。		
	5. 円に内接する四角形		○円に内接する四角形の性質を用いて、角の大きさを求めることができる。 ○四角形が円に内接するかどうかを判定できる。	○三角形の外接円と四角形の外接円の違いを認識し、円に内接する四角形の性質や四角形が円に内接する条件を理解する。	○三角形の外接円と四角形の外接円の違いを認識し、円に内接する四角形の性質や四角形が円に内接する条件を考察しようとする。
	6. 円と接線		○円の接線の性質を用いて、辺や線分の長さを求めることができる。	○円と直線の位置関係に3 つの場合があることを理解している。	
	7. 接線と弦の作る角		○接線と弦の作る角の定理を利用して、角の大きさを求めることができる。	○接線と弦の作る角についての定理の証明方法を理解する。	○接線と弦の作る角についての定理を証明する際に、鋭角の場合と鈍角の場合に分けて考察しようとする。
	8. 方べきの定理		○方べきの定理を用いて、線分の長さを求めることができる。	○方べきの定理の証明方法を理解する。	○方べきの定理は、円周角の定理や円に内接する四角形の性質などを用いて証明されることに関心をもつ。
第3 章 1 約数と倍数	1. 約数と倍数	12	○約数・倍数の意味を理解している。		○日常生活における具体的な事象の考察に、約数と倍数の考えを活用しようとする。
	2. 素数と素因数分解		○「エラトステネスのふるい」を利用して、100 以下の素数を求めることができる。 ○自然数の素因数分解を求めることができる。		○数学史に興味・関心をもつ。 ○暗号技術に素因数分解の考えが活用されていることに興味・関心をもつ。
	3. 整数の割り算		○整数 a を正の整数 b で割る割り算を、a と b の間に成り立つ等式として捉えることができる。 ○カレンダーの曜日の規則と整数の割り算の関係を理解し、問題を処理することができる。	○問題解決の過程を振り返って、割り算の余りの性質について考察を深めることができる。	○カレンダーの話題を通じて、日常に関連した法則や規則を数学を用いてとらえることに興味・関心をもつ。
不定方程式	1. 最大公約数		○公約数、最大公約数の意味を理解し、それらを求めることができる。 ○素因数分解を利用して最大公約数を求める方法を理解している。		
3 記数法	2. 現代の記数法	1	○記数法、10 進法、2 進法、n 進法について理解している。 ○n 進法の整数を10 進法で、10 進法の整数をn 進法で表すことができる。	○現代の記数法を古代の記数法と比較し、特徴を理解している。	○コンピュータなどの身近な物に、n 進法の考え方が活用されていることに興味・関心をもつ。

令和7年度 化学基礎 シラバス

対象教科・科目	単位数	学年・学級
化学基礎	2 単位	3 年農業科・園芸科・生活文化科
使用教科書・副教材等	東京書籍「新編化学基礎」（化基 702），ニューサポート新編化学基礎	

1 学習の目標

- ・日常生活や社会との関連を図りながら，物質とその変化について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- ・観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。物質とその変化に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習活動	考 査 範 囲	評価の方法		
					知 4 割	思 3 割	主 3 割
1 学 期	4	1 編 化学と人間生活 1 章 化学とは何か (2h)					
		化学とは何か	・身のまわりの製品には，その物質の性質がうまく利用されていることに気づく。		○	○	○
	5	1 編 化学と人間生活 2 章 物質の成分と構成元素 (8h)					
		1 節 物質の成分 (3h)	・純物質と混合物の性質を理解する。 ・混合物から成分を分離する方法があり，物質の性質によるものであることを理解する。	1 学 期 中 間	○ ○	○ ○	○ ○
		2 節 物質の構成元素 (3h)	・物質を構成する元素は，約 120 種類あることを知る。 ・純物質は，単体と化合物に分類されることを理解する。また，同素体があることを知る。		○	○	○
3 節 物質の三態 (2h)	・物質には三態があり，それぞれ構成する粒子がどのように運動しているか推察する。 ・状態変化によって体積がどのように変化するか，粒子のふるまいと関係について考察する。	○	○		○		
	5	2 編 物質の構成 1 章 原子の構成と元素の周期表 (5h)					
		1 節 原子の構造 (2h)	・原子の大きさや構造について知る。 ・原子の構造から陽子，中性子，電子の性質を理解する。	1 学 期 期 末	○ ○	○ ○	○ ○
	6	2 節 電子配置と周期表 (3h)	・電子配置で電子殻への電子の収まり方を知る。 ・貴ガスの性質から閉殻を知り，極めて安定な電子配置があることに気づく。		○ ○	○ ○	○ ○
	7	2 編 物質の構成 2 章 化学結合 (14h)					
		1 節 イオンとイオン結合 (4h)	・身のまわりの物質は原子やイオンがどのような結びつきでできているかを考える。 ・電子配置からイオンの生成を理解する。 ・イオン化エネルギーの周期性に気づく。		○ ○	○	○ ○
		2 節 分子と共有結合 (6h)	・分子は，非金属元素の原子が結びついてできた粒子であることを知る。 ・共有結合の形成，分子式や構造式について理解する。		○ ○	○	○
		3 節 金属と金属結合 (2h)	・金属は，金属元素の原子が規則正しく配列してできた結晶であることを知る。 ・自由電子のふるまいがわかり，金属結合の仕組みを理解する。		○ ○		
2 学 期	9 10	3 編 物質の変化 1 章 物質量と化学反応式 (10h)					
		1 節 原子量・分子量・式量 (2h)	・原子 1 個の質量は極めて小さいため，原子の相対質量とは基準として決められたある原子の質量との比較で求めた相対質量であることを知る。	2 学 期 中 間	○	○	○
		2 節 物質量 (2h)	・粒子の数に基づく量の表し方が物質量であることを知る。 ・物質量とその単位の mol の関係，さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係がわかり，それらの単位変換を理解する。 ・物質量と気体の体積との関係がわかり，それらの単位変換を理解する。気体の密度と分子量，空気の平均分子量について理解する。 ・物質量を中心とした量的関係を理解する。		○ ○ ○ ○	○	○
		3 節 溶液の濃度 (2h)	・モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の違いを考える。		○	○	○
		4 節 化学反応の表し方 (2h)	・化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。		○		
	11	3 編 物質の変化 2 章 酸と塩基 (10h)					
		1 節 酸と塩基 (3h)	・酸と塩基の性質について理解する。実験を通して確認する。 ・アレーニウスの酸・塩基の定義を理解する。 ・ブレンステッド・ローリーの酸・塩基の定義を理解する。	2 学 期 期 末	○ ○ ○	○ ○	○ ○
		2 節 水素イオン濃度と pH (3h)	・水溶液の酸性・塩基性は，水素イオン濃度の大小で表せることを知る。 ・水溶液の水素イオン濃度は広い範囲で変化するため，pH でも表せることを理解する。		○ ○	○	○
		3 節 中和反応と塩の生成 (2h)	・酸と塩基が完全に中和するときの変化を化学反応式で理解する。 ・酸と塩基が完全に中和したときの塩の水溶液が中性になるとは限らないことがわかる。 ・実験観察を通して，塩の水溶液の pH を測定して考察する。		○ ○	○	○
	12	4 節 中和滴定 (2h)	・中和の条件は，酸から生じる H ⁺ の物質量と塩基から生じる OH ⁻ の物質量が等しくなることだとわかる。 ・中和滴定に用いる器具の使い方がわかり，中和滴定の実験操作を理解する。		○	○	○
3 学 期	1	3 編 物質の変化 3 章 酸化還元反応 (14h)					
		1 節 酸化と還元 (3h)	・酸素原子や水素原子が関係していない反応についても，酸化と還元が電子の授受によって統一的に説明できることを理解する。 ・酸化数は，原子やイオンがどの程度の酸化や還元をされているのかを示す数値であることを理解する。反応前後の酸化数の増減により，酸化と還元が確認できることを理解する。	学 年 末	○ ○	○	○
		2 節 酸化剤と還元剤 (5h)	・代表的な酸化剤，還元剤は過マンガン酸カリウムや過酸化水素などであることを知る。 ・酸化還元反応の化学反応式の作ることができ，この反応の量的関係を理解する。		○ ○	○	○

科目「 体育 」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	体育	単位数	3 単位	学年・学科	全学科 2 学年
使用教科書	なし				
副教材等	アクティブスポーツ 2023				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	体を動かし、爽快感、達成感、他者との連帯感、楽しさや喜びを味わい、体力向上、ストレスの発散、生活習慣病予防等の効果をもたらす、心身両面の健康の保持増進を促す。
学習の到達目標	生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
取得可能な資格	特記なし
授業を受ける心構え	欠席や忘れ物をすることなく、主体的に授業に出席する。公正な態度で、協力的に動き、行動に責任を持つ。水泳および長距離走は完全実施（補習がある）。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	体づくり運動	○体を動かす、心と体をほぐす、動きを高める。	一斉・グループ 個別	ラジオ体操 水泳 球技 補習（水泳）
5	集団行動、ラジオ体操	○集団行動を学ぶ、ラジオ体操を学ぶ。		
6	水泳・球技選択	○4泳法に挑戦するとともに、命について学ぶ。		
7		○仲間との協力とともに技能を高める。		
9	球技選択	○仲間との協力とともに技能を高める。	一斉・グループ 個別	球技 陸上競技 補習（長距離） ロードレース
10	体育理論	○公正、協力、責任、参画の態度を学ぶ。		
11	陸上競技（長距離走）	○運動の持続力、集中力を高め、タイムに挑戦する。		
12	球技選択			
1	体づくり運動	○体力の向上に重点を置き、体力を高めるための運動、実生活に生かせる運動を行う。	一斉・グループ 個別	球技 陸上競技
2	球技選択			
3	体育理論	○活動計画を立て、実践する。		

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけている。 【技能テスト・記録測定・理解度チェック、観察】	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【観察、発表、ワークシート、レポート】	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保している。 【観察・授業態度、出席状況】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	比率(%)	その他
授業観察・テスト	40	10	10	60	
提出物等		10		10	
授業態度・発表		10	10	20	
出席状況			10	10	
				100%	

科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	2単位	学科・学年	全学科 3年
使用教科書	COMET English Communication Ⅱ（数研出版）				
副教材等	COMET基本文法定着ドリル②（数研出版）、チャンクで英単語Basic、ドリルノート②（三省堂）				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	聞いたり読んだりしたことを活用し、話したり書いたりするなど総合的な言語活動を通して4技能5領域を育成する。
学習の到達目標	1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとすることができる。 2. 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語についての知識を身につけ、背景にある文化を理解することができる。
取得できる資格	実用英語技能検定
授業を受ける心構え	授業に積極的に参加し、教材プリントやノートをきちんと仕上げ、提出する。

2. 計画 観点別評価：【主体的に学習に取り組む態度】（＝【主】）、【知識・技能】、【思考・判断・表現】

月	学習内容	学習活動・ねらい	言語材料・言語活動	その他・ 考査
4 5	Lesson 4 Digital Detox Lesson 5 Goal Setting	・デジタル機器の使い過ぎによる問題とデジタルデトックスについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・if 節・疑問詞節の用法を理解している。【知識・技能】 ・自分の気持ちや考えを伝えるために、if 節や疑問詞節を用いて短い英文を書いたり、ペアで話し合ったりできる。【思・判・表】 ・目標設定において重要なことについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・seem + to 不定詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・自分の目標について発表するために、情報や考えを整理して書いている。【思・判・表】	・if 節・疑問詞節 ・デジタルデトックスについて意見を書いたり、発表したりする。 ・seem + to 不定詞 ・自分が立てた目標についてやり取りする。	平常考査 中間考査
6 7	Lesson 6 The High School Hair Salon Lesson 7 You Can Make a Difference	・高校生美容室の活動内容や部員の思いについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・助動詞+have+過去分詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・就きたい職業について情報や考えを整理して書いている。 ・Bye Bye Plastic Bags 計画を理解するために概要や要点を把握しようとする。【主】 ・過去完了形の用法を理解している。【知識・技能】 ・環境のために自分ができることを情報や考えを整理して書いている。【思・判・表】	・助動詞+have+過去分詞 ・就きたい職業について発表する。 ・過去完了形 ・環境のために自分ができることについて英語で書く・発表する。	平常考査 期末考査
9 10	Lesson 8 Nudge パフォーマンステスト Lesson 9 The Father of Braille Blocks	・ナッジについて理解を深めるために、本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・関係代名詞 what の用法を理解している。【知識・技能】 ・身の回りの問題の解決策について英語でまとめ、発表できる。【思・判・表】 ・点字ブロックの開発者について本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・関係副詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・誰もが暮らしやすい社会について英語でまとめ、発表できる。【思・判・表】	・関係代名詞what ・関係副詞 ・誰もが暮らしやすい社会について書いたり、話したりする。	平常考査 中間考査
11 12	Lesson 10 Do We need That? パフォーマンステスト	・日本のサービスに対する留学生の考えについて概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・使役動詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・必要・不要だと思うサービスについて英語でまとめ、発表できる。【思・判・表】	・使役動詞 ・サービスについて意見を書いたり、発表したりする。	平常考査 期末考査
1 2	Lesson 11 The Vancouver Asahi パフォーマンステスト	・日系がが 人の野球チーム パンサー-朝日について概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・知覚動詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・人権の問題について発表するために、情報や考えを整理して書いている。【思・判・表】	・知覚動詞 +O+動詞 の原形 ・人権問題について学ぶ。	平常考査 学年末考査

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
・基本的な単語や語句の意味を理解し正しく発音できる。 ・例文を暗記でき、簡単な内容の英文が理解できる。 【定期考査・平常考査】 【パフォーマンステスト】	・自分の考えや意見を基本的な英語を使って表現できる。 【授業中の態度】 【定期考査・平常考査】 【パフォーマンステスト】	・授業中に積極的に質問したり、答えようとしている。 ・提出物を期限を守って提出している。 【授業中の態度】 【出席状況】 【パフォーマンステスト】 【提出物】
4割	3割	3割

科目「課題研究（野菜）」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	課題研究（野菜）	単位数	2 単位	学年・学科	3 学年・園芸科・野菜専攻生
使用教科書	野菜（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業の野菜に関するプロジェクト学習を通して、栽培管理技術、問題解決能力、または経営能力を習得させ、野菜の特性や栽培に適した環境を理解したうえでの管理能力や企画力など、農業の各分野の改善を図ることのできる実践的な能力と態度を育てる。
学習の到達目標	野菜の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、野菜の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育成する。また、科学的思考力と問題解決能力を伸ばし、農業の各分野の発展を図る能力と態度を育てる。
取得可能な資格	
授業を受ける心構え	野菜を栽培しながら、野菜をどう生産していくかを課題として研究し、いろんな活用方法を学んでほしい。問題意識を常に持って、実習に参加する。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	◎野菜の栽培（夏野菜） ◎小玉スイカの栽培管理 ◎メロンの栽培管理 ◎用土と肥料 ◎1人1畑	野菜の栽培や生育について学び、肥料量を調節することで生育の違いを学ぶ。野菜の生育や生育環境等について理解する。スイカやメロンなどのハウス栽培のメリットとデメリットを理解させる。 スイカのプロジェクト学習と個人課題研究を行う。	栽培実習 生育調査・考察	課題決め 日誌 レポート
9 10 11 12	◎野菜の栽培管理（秋野菜） ◎菊農フェスタでの販売実習	春の栽培実習経験を生かした実践を行う。マルチ等の農業資材の利用をしながら、堆肥量の比較をすることで野菜に最適な堆肥量や高品質の野菜生産について理解する。	栽培実習 生育調査・考察	課題決め 日誌 レポート
1 2 3	◎栽培実習のまとめ ◎研究レポート発表	野菜の栽培管理について理解を深めるとともに、栽培実習での経験を踏まえ、考察を深める。	レポート考察	レポート 発表

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	野菜の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、野菜の意義や役割を理解している。	野菜の栽培に関する諸問題の解決を目指し思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、栽培に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	野菜に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
評価の方法・割合等	・ 平常考查 等 ・ 学習（実習）状況	・ 平常考查 ・ 授業記録 ・ 課題レポート ・ 学習（実習）状況 等	・ 学習（実習）状況 ・ 課題レポート ・ プロジェクト発表 ・ 定期考查 等
	4 割	3 割	3 割

科目「課題研究（野菜）」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	課題研究（野菜）	単位数	2単位	学年・学科	3学年・園芸科・野菜専攻生
使用教科書	野菜（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業の野菜に関するプロジェクト学習を通して、栽培管理技術、問題解決能力、または経営能力を習得させ、野菜の特性や栽培に適した環境を理解したうえでの管理能力や企画力など、農業の各分野の改善を図ることのできる実践的な能力と態度を育てる。
学習の到達目標	野菜の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、野菜の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育成する。また、科学的思考力と問題解決能力を伸ばし、農業の各分野の発展を図る能力と態度を育てる。
取得可能な資格	
授業を受ける心構え	野菜を栽培しながら、野菜をどう生産していくかを課題として研究し、いろんな活用方法を学んでほしい。問題意識を常に持って、実習に参加する。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	◎野菜の栽培（夏野菜） ◎小玉スイカの栽培管理 ◎メロンの栽培管理 ◎用土と肥料 ◎1人1畑	野菜の栽培や生育について学び、肥料量を調節することで生育の違いを学ぶ。野菜の生育や生育環境等について理解する。スイカやメロンなどのハウス栽培のメリットとデメリットを理解させる。 スイカのプロジェクト学習と個人課題研究を行う。	栽培実習 生育調査・考察	課題決め 日誌 レポート
9 10 11 12	◎野菜の栽培管理（秋野菜） ◎菊農フェスタでの販売実習	春の栽培実習経験を生かした実践を行う。マルチ等の農業資材の利用をしながら、堆肥量の比較をすることで野菜に最適な堆肥量や高品質の野菜生産について理解する。	栽培実習 生育調査・考察	課題決め 日誌 レポート
1 2 3	◎栽培実習のまとめ ◎研究レポート発表	野菜の栽培管理について理解を深めるとともに、栽培実習での経験を踏まえ、考察を深める。	レポート考察	レポート 発表

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	野菜の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、野菜の意義や役割を理解している。	野菜の栽培に関する諸問題の解決を目指し思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、栽培に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	野菜に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
評価の方法・割合等	・平常考查 等 ・学習（実習）状況	・平常考查 ・授業記録 ・課題レポート ・学習（実習）状況 等	・学習（実習）状況 ・課題レポート ・プロジェクト発表 ・定期考查 等
	4割	3割	3割

科目「課題研究（草花活用）」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	課題研究（草花活用）	単位数	2単位	学年・学科	3学年・園芸科
使用教科書	草花（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	草花に関する実践的・体験的な学習活動やプロジェクト学習を通して、栽培管理技術、問題解決能力、生活の質の向上につながるよう主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。草花の特性や栽培に適した環境を理解したうえでの観察力、管理能力や企画力など、農業の各分野の改善を図ることのできる実践的な能力と態度を育てる。
学習の到達目標	農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。課題を解決する力の向上を目指して自ら学び農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
取得可能な資格	
授業を受ける心構え	草花を観察・栽培しながら、草花をどう活用していくかを課題として研究し、いろんな活用方法を学んでほしい。課題解決の意識を常に持って、実習に参加する。草花の観察・調査や楽しく作品作りをしましょう。学習した内容はまとめ、発表しましょう。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	◎草花の寄せ植え ◎草花の活用 ◎校内自然散策 ◎キクの栽培管理 ◎用土と肥料	草花や園芸デザインについて学び、学校の草花や樹木を使って寄せ植え・アレンジ・花生け等を実習。ガーデニングコンテストに出展。草花の特性や生育環境等について理解する。キクや観葉植物など挿し木や育苗、繁殖方法を理解させる。花の種類を学ぶ。	栽培実習 作品 生育調査・考察	レポート 作品評価
9 10 11 12	◎キクの栽培管理 ◎SDGs 活動 ◎菊まつりの展示 ◎フラワーアレンジメント ◎草花活用講習会	校内の草花や樹木観察・調査等の自然散策を通して生態を学ぶ。型をつけることで高品質のキク仕立て方や生産について理解する。地域の菊まつり出展。フラワーアレンジメントを学んだ技術をもとに作品発表や講習会企画する。草花でSDGs活動を考え、実践する。	栽培実習 観察・調査 研究まとめ 作品	レポート 作品評価
1 2 3	◎授業のまとめ・発表 ◎研究レポート	草花の楽しみ方について理解を深めるとともに、栽培実習での経験を踏まえ、考察を深める。	レポート考察 まとめ・発表	レポート

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
	草花の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、草花の意義や役割を理解し、園芸装飾作品などの技術を身に付けているか。	草花の生産と活用に関する課題を発見し、解決を目指して、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付ける。	草花に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的・協働的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	
評価の方法・割合等	・レポート ・技能試験作品 等 ・学習（プリント・実習）状況	・レポート ・授業記録 ・プリント感想 ・技能試験作品・学習（実習）状況等	・レポート ・学習（実習）状況 ・プロジェクト学習	・出席、準備 ・授業態度等
	3割	3割	4割	

科目「総合実習」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	農業(総合実習)	単位数	2単位	学年・学科	3学年 園芸科
使用教科書					
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	園芸作物の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、園芸作物の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育成する。また、科学的思考力と問題解決能力を伸ばし、農業の各分野の発展を図る能力と態度を育てる。
学習の到達目標	農業の各分野に関する体験的な学習を通して、総合的な技術を習得させ、経営と管理についての理解を深めさせるとともに、管理能力や企画力などの農業の各分野の改善を図る実践的な態度を育てる。
取得可能な資格	農業技術検定（2級・3級）（希望者）
授業を受ける心構え	栽培管理、栽培評価を主体的に行うなどの課題の探求に意欲的に取り組む

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5	施設・露地野菜、ブドウ、モモ、花苗、鉢花の生育と管理	園芸作物の生理・生態的な特性や栽培環境およびそれらと生育の相互関係を理解させ、体系的な知識と技術を習得させる。	班別実習、調査、座学等	「野菜」「果樹」「草花」の連携、農業クラブ活動、考査
6 7	野菜、ブドウ、モモの収穫・調整と草花の管理	園芸作物の収穫と調整技術、草花の管理を身につけるとともに品質向上品質の向上や消費者のニーズに配慮した商品化を図る能力を習得させる。	班別実習、調査、座学等	学期末考査
9 10 11 12	各種野菜・果樹・草花の栽培管理	野菜・果樹・草花の収穫や販売を通して、商品化に必要な調整技術と接客態度を身に付けさせる。 農場実習や各種の行事を通して、使命感とともに、企画・立案能力を身につけさせる。	班別実習、調査、座学等	学期末考査
1 2 3	次作の準備 学習のまとめ・卒業論文 プロジェクトまとめ	次作の準備に必要な内容や方法について理解させ、計画的な栽培の在り方について学ぶ。 1年間の学習のまとめと成果の報告を行う。	班別実習	学年末考査

3. 評価の観点と方法

	知識・技術 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
評価の観点	園芸作物の社会的役割を認識させ、各作物生産から消費者までのしくみを理解させる。また、栽培に関する科学的な見方と主体的・合理的に栽培する知識を身に付け、実習をとおして野菜・草花・果樹の生育と環境調整および人工環境における栽培技術について理解している。	園芸作物の観察・実験・調査・記録を分析するなど課題を多面的に考察し、栽培の基礎的な知識と技術を活用するなどして課題を適切に判断するとともに、その課題を科学的に捉えて合理的に解決する実践的な能力を身につけている。	体験的・継続的な栽培活動と地域農業の実態、経営形態、わが国の食生活に興味・関心を持ち、園芸作物栽培に関するプロジェクトを主体的に行うなど課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を探究しようとする実践的な態度を身に付けている。
評価の方法・割合等	【定期考査】【平常考査】 確認テスト 実習 等	【定期考査】【平常考査】 授業態度・発表 提出物	【平常考査】ポートフォリオ 自己・相互評価 授業態度・発表 提出物
	4割	3割	3割

科目「農業と情報」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科	農業と情報	単位数	2単位	学科・学年	園芸科3年
使用教科書	『農業と情報』 実教出版 発行				
参考資料	特記なし				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
学習の到達目標	(1) 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(2) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。(3) 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
取得可能な資格	文書デザイン検定、表計算検定、プレゼンテーション作成検定
授業を受ける心構え	興味・関心・意欲を持つ。集中力を持って臨む。

2. 学習指導計画

月	学習内容 (目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他 考查
4 5 6 7	1. 農業情報の分析 と活用	グローバル化に伴う高度情報通信社会の特質、情報通信ネットワークとデータとの相関関係や、これらを農業の各分野における情報の収集、整理、調査・分析し、活用するための資質と能力を養い、職業人として情報社会に主体的に参画する態度を育成する。	・一斉授業 ・演習 ・グループ実習	期末考查 平常考查
9 10 11	2. データの視覚 化と分析 プログラミング 演習	データを表やグラフ化し、視覚的に分かりやすくまとめる方法を学び、プロジェクト発表の際に有効に利用できるようになる。プログラミングの基礎を習得する。	・一斉授業 ・演習 ・グループ実習	期末考查 平常考查
12 1 2 3	3. 農業学習と情 報活用	各種の情報の価値を適切に判断し、情報通信ネットワークを活用した情報の収集、情報手段を用いた調査・分析・統合・加工・発信ができる技術を習得するとともに、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	・一斉授業 ・グループ発表	学年末考 査 平常考查

3. 評価の観点と方法

評価 の 観 点	知識・技術 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
	農業と情報について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	農業と情報に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	農業と情報について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価 方法 ・ 割 合 等	【定期考查】【平常考查】 確認テスト・実習 等	【定期考查】【平常考查】 授業態度・発表・提出物	【平常考查】・ポートフォリオ 自己・相互評価・授業態度・発表 提出物
	4 割	3 割	3 割

科目「専攻（野菜）」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	累計学習(野菜)	単位数	6単位	学年・学科	3学年 園芸科
使用教科書	野菜(実教出版)				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、野菜の生産と経営に必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。
学習の到達目標	(1) 野菜の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 野菜の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 野菜について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う
取得可能な資格	
授業を受ける心構え	栽培管理、栽培評価を主体的に行うなどの課題の探求に意欲的に取り組む。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5	1 高度な技術を要する施設野菜の実践	1. アールスメロンを中心として野菜の種類と特徴 2. 野菜の播種 3. 野菜の生育観察 4. 野菜の除草等管理 5. 野菜の施肥など	座学、実験・実習	定期考查
6 7	2 野菜の収穫と次作に向けて	1. アールスメロンの生育と生理 2. 野菜の栽培環境と生育調節 3. 野菜の栽培管理と収穫	座学、実験・実習	定期考查
9 10 11 12	3 学習成果発表に向けての施設野菜栽培	1. アールスメロン栽培 2. トマト・キュウリ栽培 3. 野菜の栽培管理と収穫	座学、実験・実習	
1	4 野菜のまとめ(卒論含む)	1. 野菜栽培の生育調査まとめ 2. プロジェクト発表	座学、実験・実習	学年末考查

3. 評価の観点と方法

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	野菜の体験的・継続的な栽培活動と地域農業の実態、経営形態、わが国の食生活に興味・関心を持ち、野菜栽培に関するプロジェクトを主体的に行うなど課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を探究しようとする実践的な態度を身につけている。	野菜の栽培に関する諸問題の解決を目指し思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、栽培に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	野菜に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。
評価の方法・割合等	・平常考查 等 ・学習(実習)状況 ・出欠状況	・平常考查 ・授業記録 ・課題レポート ・学習(実習)状況 等	・学習(実習)状況 ・課題レポート ・プロジェクト発表 ・定期考查 等
	4割	3割	3割

科目「専攻（果樹）」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	果 樹	単位数	6 単位	学年・学科	3 学年 園芸科
使用教科書	果樹（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	果樹を通じた経営感覚を育て、プロジェクト学習を中心に据える。観察や実習を通して、果樹の特性や生育、栽培環境の相互関係や環境の調節について学び、果樹栽培に関する科学的な見方と実践力を身につける。
学習の到達目標	果樹の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、果樹の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。
取得可能な資格	
授業を受ける心構え	栽培管理、栽培評価を主体的に行うなどの課題の探求に意欲的に取り組む。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5	プロジェクト学習 ブドウ・モモの生育と栽培 管理	プロジェクト学習。本校果樹園におけるブドウおよびモモの生理・生態的な特性や栽培環境およびそれらと生育の相互関係を理解させ、体系的な知識と技術を習得させる。	座学、実験・実 習	定期考查
6 7	プロジェクト学習 モモの収穫	プロジェクト学習。本校果樹園におけるモモの収穫を通して、地域農業における実態を習得する。販売を通して、品質の向上や消費者のニーズに配慮した商品化を図る能力を習得させる。	座学、実験・実 習	定期考查
9 10	プロジェクト学習 ブドウの収穫	プロジェクト学習。本校果樹園におけるブドウの収穫を通して、地域農業における実態を習得させる。販売を通して、品質の向上や消費者のニーズに配慮した商品化を図る能力を習得させる。	座学、実験・実 習	
11 12	プロジェクト学習・まとめ カキ・クリの生育と栽培管理（ 収穫）	プロジェクト学習・まとめ。本校果樹園におけるカキおよびクリの生理・生態的な特性や栽培環境およびそれらと生育の相互関係を理解させ、体系的な知識と技術を習得させる。	座学、実験・実 習	定期考查
1 2	プロジェクト発表 果樹の品種、生育と栽培管 理（剪定）	プロジェクト発表。本校果樹園における栽培管理を通して、冬期の土管理と剪定について体験させる。果樹園における次年度に向けた備えを実践させる。	座学、実験・実 習	定期考查
3				

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の方法・割合等	果樹の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、果樹の意義や役割を理解している。	果樹の栽培に関する諸問題の解決を目指し思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、栽培に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	果樹に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
	・ 平常考查 等 ・ 学習（実習）状況	・ 平常考查 ・ 授業記録 ・ 課題レポート ・ 学習（実習）状況 等	・ 学習（実習）状況 ・ 課題レポート ・ プロジェクト発表 ・ 定期考查 等
	4 割	3 割	3 割

科目「専攻（草花）」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	類型学習（草花）	単位数	6 単位	学年・学科	3 学年 園芸科
使用教科書	草花（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業の草花に関するプロジェクト学習を通して、栽培管理技術、課題解決能力、また経営能力を習得させる。草花の特性や栽培に適した環境を理解したうえでの管理能力や企画力など、農業の各分野の改善を図ることのできる実践的な能力と態度を育てる。
学習の到達目標	草花の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、草花の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育成する。また、科学的思考力と問題解決能力を伸ばし、農業の各分野の発展を図る能力と態度を育てる。
取得可能な資格	フラワー装飾技能検定
授業を受ける心構え	自ら学ぶ姿勢を持ち、実習・観察・研究に積極的に参加する。探究意識を常に持ち、課題解決策を考え実習に参加する。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	◎シクラメンの栽培管理 ◎シクラメンの生育特性 ◎苗物生産（春物） ◎シクラメンの栽培管理 ◎シクラメンの用土と肥料	シクラメンの生産、消費の特徴や原産地の気候及び本来の生育・生育環境（温度・光・水分）等について理解する。4. 5号、5号、6号鉢に鉢替えや学校独自の用土について理解する。養分吸収特性について理解する。	栽培実習 生育調査・考察 販売実習	定期考查
9 10 11 12	◎シクラメンの栽培管理 ◎苗物生産（秋物） ◎シクラメンの出荷調整	夏の栽培実習経験を生かした実践を行う。葉組みや枯れ葉取りを行う事で高品質のシクラメン生産について理解する。花壇作成を行い、重要性や特性を理解する。	栽培実習 販売実習	定期考查
1 2 3	◎栽培実習のまとめ ◎鉢もの生産 （サイリア、ラナンキュラス、カーネーション） ◎研究発表	持続可能な農業について理解を深めるとともに、栽培実習での経験を踏まえ、考察を深める。シクラメン以外の鉢もの生産について理解する。	調査の考察 研究発表会	定期考查 研究発表

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	草花の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、草花の意義や役割を理解している。草花に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	草花に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、課題を発見し、創造的に解決する力を身に付けている。	草花の栽培に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
評価の方法・割合等	・ 定期考查・平常考查 ・ 実技 ・ プリント等	・ 定期考查・平常考查実技 ・ 授業の取り組み・実技 ・ プリント	・ 平常考查 ・ 実習日誌 ・ ポートフォリオ・自己・相互評価 ・ 授業の取り組み・プリント
	4 割	3 割	3 割

科目「農業経営」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科	農業経営	単位数	1単位	学科・学年	園芸科 3学年
使用教科書	農業経営（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業経営の設計と管理に必要な知識と技術を習得させ、コスト管理とマーケティングの必要性を理解させるとともに、経営管理の改善を図る能力と態度を育てる。
学習の到達目標	農業経営の①設計と管理に必要な知識と技術を習得させ、②コスト管理とマーケティングの必要性を理解させるとともに、③経営管理の改善を図る能力と態度を育てる。
取得できる資格	特記なし
授業を受ける心構え	自ら学びようとする姿勢で、世界情勢や日本の農業経営の在り方について、常に問題意識を持ち、授業に参加する。

2. 学習指導計画

月	学習内容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	・農業経営と情報	・農業経営をとりまく環境 ・情報収集・活用 ・マーケティング ・社会環境	座学 ワークシート	平常考查（4割） 期末考查（6割）
9 10 11 12	・農業経営の会計	・簿記の基礎 ・各種取引の記帳と決算 ・原価計算	座学 ワークシート	平常考查（4割） 期末考查（6割）
1 2 3	・農業経営の診断と設計	・農業経営の診断 ・農業経営の設計	座学 ワークシート	平常考查（4割） 学年末考查（6割）

3. 評価の観点と方法

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	農業経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けているか。	農業経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けているか。	農業経営のマネジメントやマーケティングが経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けているか。
評価の方法・割合等	・定期考查・平常考查 等 ・学習（実習）状況 ・課題レポート	・定期考查 平常考查 ・授業記録 課題レポート ・学習（実習）状況 等	・学習（実習）状況 ・課題レポート ・定期考查 等
	4割	3割	3割

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
農業	農業機械	園芸科	3	2	農業機械（実教出版）	なし

1 科目の目標と評価の観点

目 標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業機械の取り扱いと維持管理に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）農業機械について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）農業機械に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３）農業機械について特性を理解し、効率的な利用へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
評 価 の 観 点	知識・技能（術）	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	農業機械について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができたか。	農業機械に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けることができたか。	農業機械について特性を理解し、効率的な利用へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けることができたか。
評 価 の 方 法 ・ 割 合 等	定期考査 平常考査（技能試験等）	定期考査 授業記録 平常考査（技能試験等） 課題レポート 学習（実習）状況 等	学習（実習）状況 等
	4割	3割	3割

2 学習計画と観点別評価規準 ※履修月は目安

学習内容	月	観点別評価規準等		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1章 農業機械の役割	4 5	農業機械の基本的・基礎的な構造と機能についての知識を理解することができた。農業経営における機械の役割を理解している。	農作業における農業機械の意義について判断することができた。	農業機械化に必要な情報を集め、まとめ自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができた。
第2章 原動機	6 7	各種内燃機関の構造や燃料の違いについて理解している。	内燃機関の構造を理解し、適切な整備を行う技能を習得するために思考を深め、適切に表現している。	イ構造を理解し、適切な整備を行う技能を習得するために興味・関心をもち、体系的な知識と技術について探究しようとしている。
第3章 トラクタ	9 10 11 12	トラクタの農作業における役割について正しく理解している。	トラクタの構造を理解し、適切な操作や整備を行う技能を習得するために思考を深め、適切に表現している。	トラクタの仕組みについて興味・関心をもち、それらの構造や使用法の違いについて探究しようとしている。
第5章 農業機械の安全	1 2	安全に関する法規を正しく理解し、農業機械の整備と保守の役割について正しく理解している。	農業機械の整備と保守の方法やそれらに関する法規を理解し、農業機械による事故や健康障害について思考を深め、適切に表現している。	安全に関する法規を正しく理解し、農業機械の整備と保守の役割について正しく理解している。

科目「植物バイオテクノロジー」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	植物バイオテクノロジー	単位数	2単位	学年・学科	3学年 園芸科
使用教科書	植物バイオテクノロジー（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	園芸植物や動物、人間社会においてさまざまな分野にバイオテクノロジー技術が利用されていることを深く理解する。また、実用につながる基礎・基本となる知識と技術を学ぶ。
学習の到達目標	1. 人類がバイオテクノロジーをどのように活用、また日常生活とどのように結びついているかを理解する。 2. バイオテクノロジーの基礎基本を実践し、農業や環境へのつながりを理解する。 3. バイオテクノロジーを通して生命の尊さを学び、生物が持つ潜在的な能力を理解し応用する能力を養う。
取得可能な資格	バイオ技術者認定試験（初級）
授業を受ける心構え	世の中から求められる技術及び技術の正しい捉え方・使い方について考えよう。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	◎バイオテクノロジーの役割と基礎 ◎組織培養の基礎	○農業とバイオテクノロジーの関係を知る。 ○植物の特性とバイオテクノロジーの基礎について学ぶ。 ＜植物の観察・実験器具の扱い方＞	知識学習 ワークシート 実験	中間考查 学期末考查
9 10 11 12	◎細胞融合と遺伝子組換え ◎バイオマス利用	○細胞融合のしくみについて理解する。 ○遺伝子組換えの特質と技術の正しい捉え方について考える。＜植物の培養実習＞ ○バイオマスの活用について探る。 ＜アイディアシートの作成＞	知識学習 ワークシート 実習	中間考查 学期末考查
1 2 3	◎植物バイオテクノロジーの成果と展望	○実用化への課題と展望について考える。 ○地球環境のために、技術をどう生かすかについて、考えをまとめ、意見を共有する。 ＜ディベート「世の中に求められるバイオテクノロジーとその活用」＞	知識学習 ワークシート レポート 実習	学年末考查

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	バイオテクノロジーの特性や農業分野との関係性、また現代社会から求められる役割について、正しく理解している。	バイオテクノロジーについての記録から技術の特性を分析し、課題を見つけて表現すると共に、解決する力を身につけている。	農業とバイオテクノロジーの関わりや役割に興味・関心を持ち、学習や研究に主体的に取り組む姿勢を身につけている。
評価の方法・割合等	・定期考查、平常考查 等 ・学習（実習）状況	・定期考查、平常考查 ・授業記録 ・課題レポート ・学習（実習）状況 等	・学習（実習）状況 ・課題レポート ・定期考查 等
	4割	3割	3割